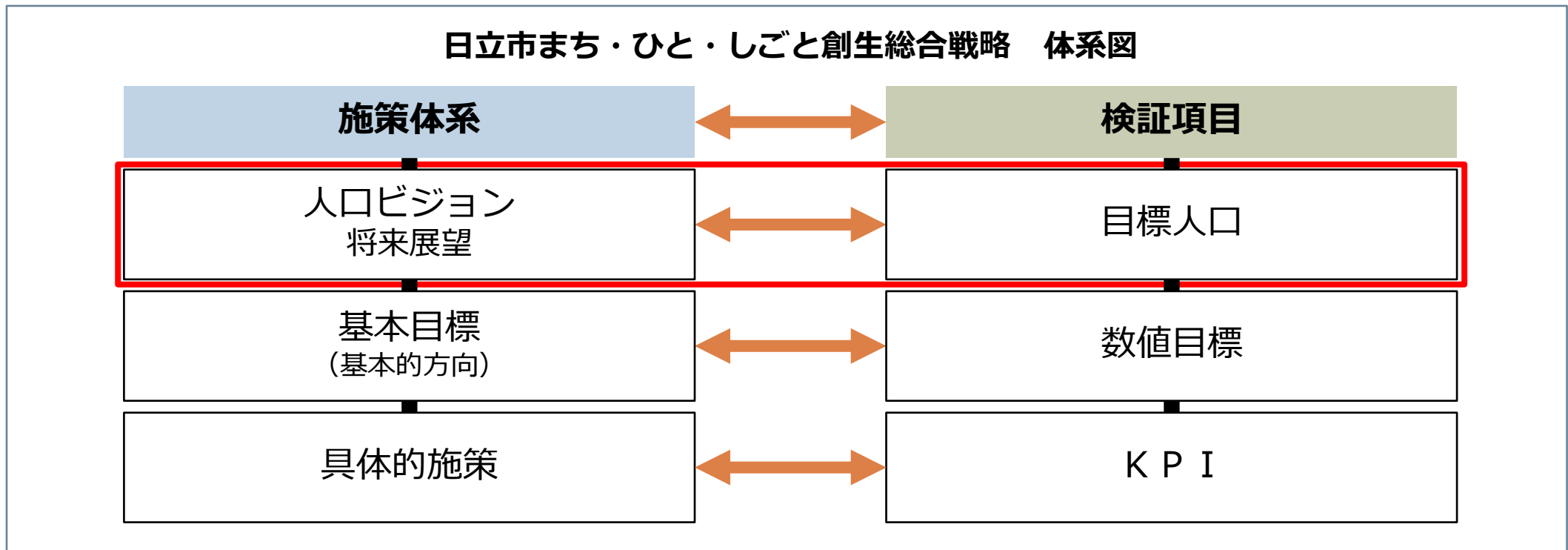


日立市人口ビジョン改訂骨子（案）

1 人口ビジョンの位置付け

人口ビジョンは、本市の「**人口の現状**」と「**将来の見通し**」について、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）が公表する最新の「日本の地域別将来推計人口」を踏まえて改訂し、「日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）」において、**効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎**と位置付ける。



2 第1期から第3期までの日立市人口ビジョンの推移

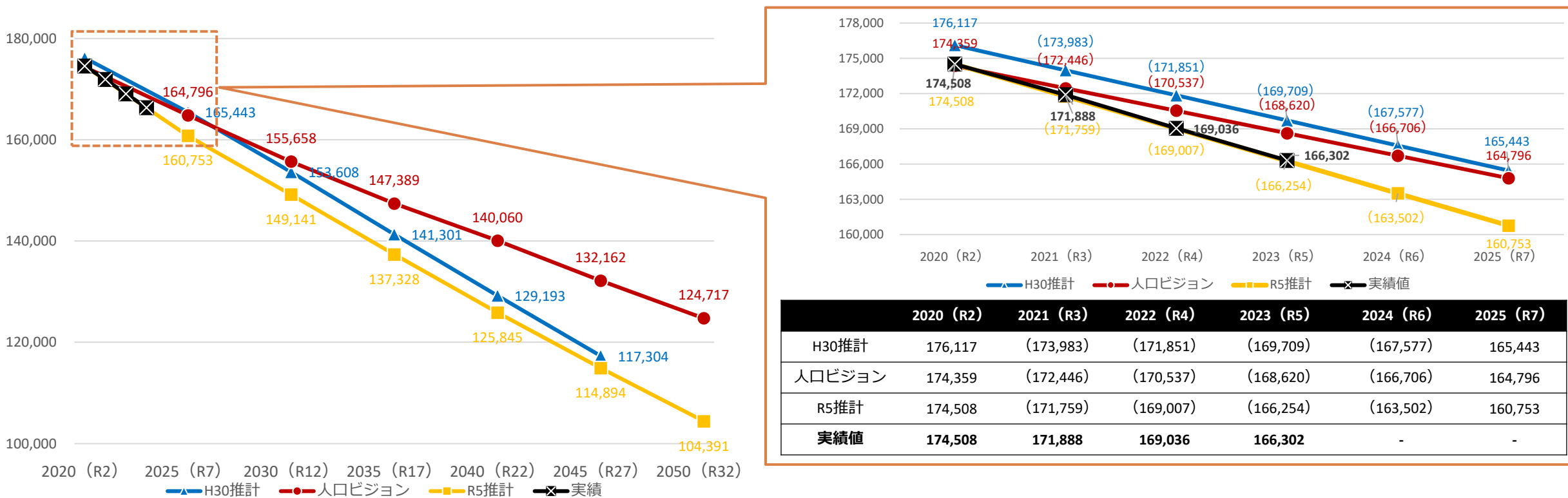
- 国勢調査の結果等を踏まえて社人研から5年ごとに公表される最新の「日本の地域別将来推計人口」に、本市独自に人口増減に及ぼす影響を考慮して「日立市人口ビジョン」を策定している。



・ 社人研推計・人口ビジョンの目標人口：2040年時点

3 日立市人口ビジョン（目標人口）と実績値との比較

- 現行の第2期総合戦略の人口ビジョンにおける人口の目標値と実績値は、年々乖離幅が広がっている（実績値が下振れしている。）。
- なお、最新の国勢調査等のデータを踏まえて推計された、社人研の「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」の推計値と実績値はほぼ一致している。



毎年10月1日現在
括弧内の数値は、推計値から独自に算出した値

出典：日本の地域別将来推計人口（社人研）・第2期総合戦略（日立市）・日立市地区別（学区別）・年齢別人口

4 第3期日立市人口ビジョンの推計方法

(1) 基本的な考え方

- 第1期及び第2期の人口ビジョンの推計方法と同様、社人研の「日本の地域別将来推計人口」の推計値を基準に、社会情勢の見通しや本市の人口減少対策などが、人口変動要因の3要素（①「出生」、②「移動（転入・転出）」、③「死亡」）に及ぼす影響を予測（仮定値）して推計する。
- それら予測に加え、本市の目指すべき人口の将来展望（様々な施策の効果を反映した結果）として推計する。

【参考】社人研推計で用いられている仮定値

要素	仮定値
①出生	子ども女性比（20～44歳女性人口に対する子ども（0～4歳）人口の割合）
②移動	純移動率（転入率－転出率）
③死亡	生残率（一定期間内に生き残る人口の割合（年代別・男女別に算定））

4 第3期日立市人口ビジョンの推計方法

(2) 日立市における人口変動の3要素（出生・移動・死亡）に関する分析

要素	R5社人研推計	本市の人口動態分析
出生	<ul style="list-style-type: none">出生率はH30推計と比較し、更に減少傾向として推計	<ul style="list-style-type: none">若い女性人口の減少、出生率の低下などにより減少傾向が続いている。
移動	<ul style="list-style-type: none">2025（R7）年以降は、若者世代を中心に社会減が若干改善すると推計全国的な傾向として、外国人の割合が増加していくとして推計	<ul style="list-style-type: none">若者世代を中心とした転出超過の傾向が継続しているものの、近年、若年女性の減少幅に、一部改善が見られる。県内他市町村に比較し、外国人人口の割合は少ないが、外国人人口は増加傾向にある。
死亡	<ul style="list-style-type: none">生残率は、わずかに改善しているが、長期的な人口動態に与える影響はほとんどない。	<ul style="list-style-type: none">産業の発展とともに、増加した世代が高齢期を迎えており、亡くなる方が増えている。

5 人口ビジョン（目標人口）

【目標人口】

2040（R22）年に **「13万5,000人」** を目標にする。

- 本市の社人研推計によるR22（2040）年将来推計人口は、H25推計とH30推計では11,949人の減少に対し、H30推計とR5推計では、3,348人の減少となり、減少幅が緩和（改善）された。
- 本市の第1期・第2期の人口ビジョンにおいては、社人研推計値と比較し約1万人多い人口を目標人口としている。
- 茨城県及び県内他市町村の人口ビジョン（目標人口）においても、社人研推計に準拠しつつ、地方創生の様々な施策の効果を反映した結果を人口の将来展望としており、目標人口（人口ビジョン）は社人研推計値よりも高く設定している。

6 人口及び年齢構成の推移と人口ビジョン改訂案

